

学校教育目標 ・進取の気性に富み自己の向上に努める生徒を育成する。 ・お互いの人権を尊重しあう思いやりの心を持った豊かな人間性を培う。 ・人として「自覚と責任」のある生き方ができる節度ある生徒を育成する。	
目指す学校像（ビジョン） ・基礎学力の確実な定着を図り、個に応じた進路実現が達成できる学校 ・生徒の基本的な生活習慣が確立した規律ある学校 ・調和の取れた人格を育成する学校 ・保護者や地域から信頼される開かれた学校	

部課	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			
				努力指標	成果指標		
学力の向上	高い学力と幅広い教養を育成するカリキュラム・マネジメントの確立と「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開する。	「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業を実践し、生徒の意欲向上に資する評価方法を研究・実践する。定期考査の改善に向けて研究・実践する。	全教員が、授業の最初に「本時の目標やめあて」を設定し、授業の最後に「本時のふりかえり」を設定し、実践する。 定期考査において、新課程をふまえて図・表や資料などを活用し思考力・判断力・表現力を評価する問題を作成する。	4 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」の設定を行った教員の割合が全教員の80%以上であった。	4 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」を設定し授業で利用した割合が全体の80%以上であった。		
				3 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」の設定を行った教員の割合が全教員の60%以上であった。	3 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」を設定し授業で利用した割合が全体の60%以上であった。		
				2 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」の設定を行った教員の割合が全教員の40%以上であった。	2 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」を設定し授業で利用した割合が全体の40%以上であった。		
				1 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」の設定を行った教員の割合が全教員の40%未満であった。	1 ルーブリック評価表を作成し、「目標」と「ふりかえり」を設定し授業で利用した割合が全体の40%未満であった。		
				4 担当教科・科目において、新傾向をふまえた問題を多く取り入れた。	4 一回の定期考査において、新傾向を意識した出題が20点以上あった。		
				3 担当教科・科目において、新傾向をふまえた問題の比率を増やした。	3 一回の定期考査において、新傾向を意識した出題が15点以上あった。		
	2 担当教科・科目において、新傾向をふまえた問題をできるだけ取り入れた。	2 一回の定期考査において、新傾向を意識した出題が10点以上あった。					
	1 担当教科・科目において、新傾向をふまえた問題をほとんど取り入れることができなかった。	1 一回の定期考査において、新傾向を意識した出題が10点未満であった。					
	生徒一人ひとりが志を高く持ち、目標とする進路を実現する計画的な進路指導態勢を確立する。	全ての生徒が第一志望とする進路に最後まで挑戦することができる進路指導を行う。	1・2年生において、模試の事前指導・事後指導を徹底し、模試を短期的な学習目標とした取組を定着させる。 大学入試センター試験で文型では5教科8科目、理型では5教科7科目を受験する意義を理解させ、模擬試験で最後まで5教科を受験させる。	4 全員受験の模試で、事前の過去問題配付と解き直しの配付、答案返却後の復習の指導を必ず行った。	4 1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の50%以上であった。		
				3 全員受験の模試で、事前の過去問題配付と解き直しの配付は行ったが、答案返却後の復習の指導を行わない時があった。	3 1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の40%以上であった。		
				2 全員受験の模試で、事前の過去問題配付は行ったが、解き直しの配付と答案返却後の復習の指導を行わない時があった。	2 1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の30%以上であった。		
				1 全員受験の模試で、事前の過去問題配付と解き直しの配付、答案返却後の復習の指導のいずれも十分に行うことができなかった。	1 1・2年生11月模試において、3教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の30%未満であった。		
4 3年生9月マーク模試において、文型5教科8科目・理型5教科7科目を受験する生徒が校内受験者の60%以上であった。				4 4月段階での第一志望先を受験した生徒が70%以上であった。			
3 3年生9月マーク模試において、文型5教科8科目・理型5教科7科目を受験する生徒が校内受験者の50%以上であった。				3 4月段階での第一志望先を受験した生徒が60%以上であった。			
系統的な探究活動を研究・実践することにより、主体的に学び、思考・判断し、課題を解決しようとする生徒を育成する。	提示された課題に対し主体的に学ぶ生徒を育成するために、学年全体で指導にあたる。	教育研究部が、毎時の「総合的な学習の時間」の指導案を作成する。指導方法については、学年会および担任副担任の連絡調整によって周知徹底を図る。	4 教育研究部による指導案の作成・提供が、全時間の100%に至った。	4 総合的な学習における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答95%以上であった。			
			3 教育研究部による指導案の作成・提供が、全時間の80%以上に至った。	3 総合的な学習における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が80%以上であった。			
			2 教育研究部による指導案の作成・提供が、全時間の60%以上に至った。	2 総合的な学習における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が60%以上であった。			
			1 教育研究部による指導案の作成・提供が、全時間の60%未満であった。	1 総合的な学習における生徒の授業アンケート(主体的に取り組むことができたの項)の肯定的回答が60%未満であった。			
			基本的生活習慣	基本的生活習慣の重要性を自覚し、規律・規範を遵守する生徒を育成する。	基本的生活習慣を身に付けさせる。	4 教職員によるベル着や遅刻指導を95%以上徹底できた。	4 1日の遅刻者数の平均が全生徒の0.5%未満であった。
						3 教職員によるベル着や遅刻指導を90%以上徹底できた。	3 1日の遅刻者数の平均が全生徒の0.5%～1%未満であった。
2 教職員によるベル着や遅刻指導を80%以上徹底できた。	2 1日の遅刻者数の平均が全生徒の1%～2%未満であった。						
1 教職員によるベル着や遅効指導を80%未満しか徹底できなかった。	1 1日の遅刻者数の平均が全生徒の2%以上であった。						
豊かな心の育成	地域と連携した活動を通して、ボランティア精神に富み、社会に貢献できる人材を育成する。	行事や部活動、ボランティア活動を通して生徒の自主性の向上に努める。				4 すべての部において顧問が活動時間厳守を指導した。	4 全ての部が決められた活動時間で活発な活動を行った。
						3 80%以上の部で顧問が活動時間厳守を指導した。	3 80%以上の部が決められた活動時間で活発な活動を行った。
			2 60%以上の部で顧問が活動時間厳守を指導した。	2 60%以上の部が決められた活動時間で活発な活動を行った。			
			1 60%未満の部でしか顧問が活動時間厳守を指導できなかった。	1 60%未満の部が決められた活動時間で活発な活動できなかった。			
			4 関わるすべてのボランティア活動に参加した。	4 のべ300人以上の生徒がボランティア活動に参加した。			
			3 関わる80%以上のボランティア活動に参加した。	3 のべ200人以上の生徒がボランティア活動に参加した。			
	2 関わる60%以上のボランティア活動に参加した。	2 のべ100人以上の生徒がボランティア活動に参加した。					
	1 関わる60%未満のボランティア活動しか参加できなかった。	1 のべ100人未満の生徒しかボランティア活動に参加できなかった。					
	生活環境部	清掃活動を充実させる。	日々の清掃活動の徹底を図ると同時に、大掃除の日を設定し校内美化につとめる。あわせて安全点検を実施し、校内の安全確保と環境保全につとめる。	4 大掃除を年10回以上設定し、安全点検がすべて実施された。	4 清掃チェックにおいて、90%以上の場所・項目で「よい」がつき、安全点検はすべて実施された。		
				3 大掃除を年8回以上設定し、安全点検が90%以上実施された。	3 清掃チェックにおいて、80%以上の場所・項目で「よい」がつき、安全点検は90%以上実施された。		
				2 大掃除を年5回以上設定した。安全点検が80%以上実施された。	2 清掃チェックにおいて、60%以上の場所・項目で「よい」がつき、安全点検は80%以上実施された。		
				1 大掃除を年5回未満しか設定できなかった。安全点検が80%未満しか実施されなかった。	1 清掃チェックにおいて、「よい」がついた場所・項目が60%未満で、安全点検は80%未満しか実施されなかった。		
開かれた学校づくり				学校経営の方針や学校の特色を学校案内やホームページなどを通じて広報活動に努める。	学校案内やホームページを充実させ、保護者や地域により詳しく具体的な情報を提供する。	4 ホームページの更新が年間250回以上であった。	4 ホームページの閲覧回数が年間80000回以上であった。
						3 ホームページの更新が年間200回以上であった。	3 ホームページの閲覧回数が年間60000回以上であった。
	2 ホームページの更新が年間150回以上であった。	2 ホームページの閲覧回数が年間40000回以上であった。					
	1 ホームページの更新が年間150回未満であった。	1 ホームページの閲覧回数が年間40000回未満であった。					